

## XMLコンソーシアムSOA部会 普及啓発「SOA概要解説書の作成」

SOA部会サブリーダー  
(株)プレイネットワークス  
芦田尚人

## BI研究部会、SOA部会の目標

	ITベンダー	ユーザー
ITの知識	SOA実現に有用な パターン研究	ビジネスプロセス・ モデルの記述  普及啓発
	SOAの考え方や意義についての調査整理	
Businessの知識	ビジネスプロセス・ モデルの記述	

## 背景

- いろいろなところでSOAの説明を聞く
- 必要性を認識する。
- 社内にも広めたい。

何か資料欲しい。

## コンソーシアムでの作成資料

### SOA技術的資料

- Service Oriented Architecture概説  
コンソーシアムDay 大阪セミナー
- SOA実現化の考察  
コンソーシアムWeek
- SOAとワークフロー  
コンソーシアムWeek
- テクノロジーMAP &用語 (SOA)  
コンソーシアムWeek

## 普及・啓発のための資料作成

既に資料があるのなら...

それを使って資料を作ろう!

- 内容  
現在の資料を、もっと簡単にする。  
順序を全体の流れにそって組み替える。
- 説明文を加えて、読んでわかる物にする。

## 資料によるメリット

- 閲覧者  
社内等の普及に使用できる。  
その場だけの知識にならない。
- 作成者  
深い知識に変わる。

SOA概要説明書Project



## Projectメンバー

メンバー： 芦田尚人 (ブレインワークス)  
稲荷教司 (PFUアクティブラボ)  
倉沢良明 (キヤノン)  
永田明 (サンモアテック)  
森本信次 (日本オラクル)  
山本倫生 (東日本電信電話)  
監修/編集：天野富夫 (日本アイ・ビー・エム)  
牧野友紀 (日本ユニシス)



## 配布資料

- 2005年6月8日  
XMLコンソーシアムWeek版
- 2005年6月末ごろ  
ダウンロード版 (Week発表資料として)

# 構成

- 1.現在のIT環境
- 2.SOAとは
- 3.SOAにおけるサービスとは
- 4.SOAの位置付け
- 5.SOAのビジネス上での意義
- 6.サービスのオーケストレーション
- 7.ワークフロー
- 8.SOA実現化  
     アーキテクチャ関連  
     サービス分類  
     モニタリング  
     ガイドライン
- 9.まとめ
- 10.用語説明

# 解説 (はじめに)

21世紀を迎え、ITを含む様々な技術革新が引金となり、市場の多様化、変化のスピード化が急速に進展している。そのため、企業活動において、**速やかな変化への対応と、同時にROIを高めることが経営側に強く求められる時代**になっている。

ITにおけるこの5年間は、**XML、Webサービスに関連する技術革新が顕著**であり、特に、

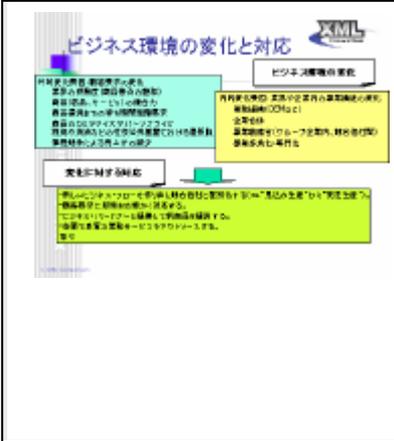
- XML、Webサービス、BPM,SOA等の技術の確立
- W3C、OASISなど標準化団体により進行中の意欲的な技術の標準化作業
- WS-llによるWebサービスの相互運用性の確立
- UML,BPMN、BPELと言ったビジネスプロセスを表現するモデリング記法や記述言語が確立

があげられる。

**これによりに業界、企業、組織に分散するシステムを協調動作させることが容易**になり、また、ビジネスプロセスの変革や改善とシステムの再編の効率が格段に上がることになる。ビジネスイノベーションを見据えた経営のニーズに応え、必要とされるシステムを短期間で低いコストで備える必要がある。そのIT基盤の中核には、分散する各システムの機能をサービスとして部品化し、サービスを組み上げることでシステム間のプロセスを形成したり、既存システムを利用して新規システムを構築するSOAの概念がある。本資料は、SOAを中心に、その考え方、効果、実現の方法の概観を、今までにXMLコンソーシアム部会活動で発表を行ったスライドを基に解説する。

# 解説 (現在のIT環境)

XML Consortium



まず、ITを適用するビジネス環境について、考えてみる。

現在のビジネス環境において、**ビジネスを遂行する環境が変化することがある**。この変化は、**外的要因による変化と 内的要因による変化に分かれると考察できる**。外的要因には、競争の激化、時間短縮要求、商品のパーソナライズ、価格競争などがあり、**内的要因には、企業構成の変更や、事業の多角化といった構造の変化がある**。これらの変化に対応し、企業として利益を得るためには、**新しいビジネス・フローを作成し、顧客の要求に細かく対応する等の他社との差別化を行う必要性がある**。また、パートナーと提携しての新商品提供や、アウトソースにより良質で安価な製品提供するといった対応も必要となってくる。

# 解説 (SOAとは)

XML Consortium



現在のビジネス環境及び技術の変化という観点から、背景を見てきたが、主題であるSOAとは何かという具体的な内容について考察を行ってみる。

現在のシステム環境では、システムが散在しているのが現実である。散在するシステムを**業務の視点から機能の集合ととらえ、環境の変化に対応して迅速に機能を組み替えることで、柔軟に対応するシステム構築方針がSOAである**。ここでいう機能は、それぞれが業務へのサービスであることから、**ビジネスのサービス**と言い換えることができる。システムの観点より具体的な実装イメージで表現すると、アプリケーションをラップし、サービスの提供者として実現する。そして、外部から見た場合には、**実装方法やハードウェア、OS、ミドルウェアに関係なくインターフェイスのみを意識すればいいようにする**。これらにより、サービスとして、1つの業務部品として扱うことが可能となる。

こういったシステム構築の実現を行うためには、**アーキテクチャパターンやデザインパターン、ベストプラクティス等が必要であり、これらがSOAの構成要素である**。

# 解説 (SOAの位置づけ)

XML Consortium



事業を構成するビジネスプロセスは、各組織や役割に分担された業務上のサービスの組合せと考えることができる。このサービスは、組織と同様に階層的に管理される。ビジネスプロセスは、組織階層と同様に垂直に統合されるものと、組織横断的に水平に統合されるものがある。SOAに基づく情報システムでは、組織間に跨るビジネスプロセスに合わせてデータや処理を統合するために、各システムのサービスを統合してプロセスを形成する。このプロセスで統合するサービスは、社内の部門内外、社外を問わない。

# 解説 (まとめ)

XML Consortium



SOAの発展は、まずは、「Webサービスの適用」段階からはじまり、「サービスの再利用」段階、「SOAの展開」段階への発展が考えられる。現在の日本ではWebサービスの適用段階と言える。「Webサービスの適用」段階では、WSDLによるインターフェイス定義とアプリケーションのラッピングが行われ、「サービスの再利用」段階では、ツールによるプロセス定義やワークフローによる結合、そしてUDDIによる検索が行われる。「SOAの展開」段階では、ビジネスモデリングからメッセージ設計まで一貫した手順が確立され、サービスの内容、レベルによる検索が行える。SOAは、このような段階を通じて、発展していくと考えられる。



## 解説資料を通じて

- 説明を行う文章にするには難しい。  
本当にわかる文章なのか？
- SOAに関して意味合いが細かく変更されている点もあり、スライドと同期が取れない。

こういうことができるのも  
コンソーシアムだから

資料が役立ってくれればなあ。